

# ロジスティクス最前線/関東版 特集

# 「誰でもできる」で離職減



伊藤 淳氏

いとう・じゅん 1966年生まれ、福岡県出身。ダイエー、アオキインターナショナル、エンフィールドを経て、2015年6月ケイソー設立、社長。



波田 雅文氏

はだ・まさひこ 1967年生まれ、和歌山県出身。2008年5月ビー・カーゴワークス設立、社長。



大島 弘明氏

おshima・ひろあき 1964年生まれ、東京都出身。88年4月日通総合研究所入社、2018年8月から現職。

## 事業者7割「人手不足」 大島

大島 物流の現場では、ドライバー不足が大きな問題として顕在化している。一方で、EC(電子商取引)市場の増加に伴い、宅配便のボリュームが増え、再配達の問題も出ています。事業者からは、BtoC(企業-消費者)の宅配では、5、6割が不在といった声も聞きます。生活の中の利便性を担うラストワンマイル輸送について、今後どのような問題が生じるのか、そして解決するにはどうすれば良いのか、議論したいと思います。

## 直荷主にこだわり営業 波田

大島 志村社長、波田社長のお二人はそれぞれいかがですか。伊藤 福岡に支店があり、関東は一人当たりの求人15万円、福岡は3万円、4万円、1回の募集で15人くらい集まります。なので、まずは福岡で採用し、東京に来てもらうようにしています。九州は宅配ではなく、企業向け配送などを手掛けているため、単的に保証されています。ネットスーパーをメインとする東京では慢性的に人手不足が続いています。太田 当社はギオン(浜園義久会長兼社長、模原市中央区)の6社目となるグループ会社で、軽貨物車での配送に特化した事業展開を行っています。2014年2月から、大手

EC(電子商取引)市場の拡大に伴い、ネット通販での荷物が増え、大手宅配事業者を中心に運賃の値上げと総量規制が始まっている。ドライバー不足に加え、労働時間短縮をはじめとする働き方改革の流れの中、物流事業者は更なる対応を迫られている。ネット通販を含め、宅配業務の最終段階を担う軽貨物運送事業を手掛ける経営者に集まってもらい、現状の打開策や、ラストワンマイル輸送の今後の展開について話してもらった。

## ラストワンマイル輸送の展望

大島 志村社長、波田社長のお二人はそれぞれいかがですか。伊藤 福岡に支店があり、関東は一人当たりの求人15万円、福岡は3万円、4万円、1回の募集で15人くらい集まります。なので、まずは福岡で採用し、東京に来てもらうようにしています。九州は宅配ではなく、企業向け配送などを手掛けているため、単的に保証されています。ネットスーパーをメインとする東京では慢性的に人手不足が続いています。太田 当社はギオン(浜園義久会長兼社長、模原市中央区)の6社目となるグループ会社で、軽貨物車での配送に特化した事業展開を行っています。2014年2月から、大手

志村 はっきり言えば、イメージづくりです。当社はフットサルチームのメンバーをしてもらっていますが、その人の交流を通じて紹介で人が来たり、事務職では、1人の募集で20~30人集まったりします。また、個人事業主は集まりにくくなったので、今は社員への切り替えを進めています。昨年46人、今年は16人採用しました。社員に対する経費が掛かりますが、これを補える仕事を取ろうとしています。

大島 話を聞くと、既に各社で工夫して雇用されているように思えます。志村 理事長の会社で安定雇用できている理由は、何でしょうか。

伊藤 仕事内容により、金額の多寡は、午前8時から始まるので、午後6時に終わり、車に

もナビがあつて仕事しやすい」といった条件が求められています。また、福岡の人で東京にいたい人は多いようにも思います。太田 もちろんドライバーによりけりです。ラストワンマイルでは、商品お届け時にお客さまから「ありがとう」という言葉を掛けていただくことがよくあります。他の運送業務ではこのようにすることは少なく、応援の際にグループ各社から集まったドライバーが、お客さまからこうした言葉を掛けていただく、琴線に触れたのか「デリバリーの仕事をしたい」と申し出たケースもありました。また、軽貨物車は普通自動車免許で運転できるので、グループ各社で中型・大型車のドライバー向けに行っている募集よりも反応の良さが顕著です。

## 都民の暮らしを運ぶ、緑ナンバートラック。

# 東ト協 100

# あ 86.3%

物流がライフラインとしてこれまでも、これからも安全・安心な輸送サービスを。

新鮮な野菜や果物、肉、魚などの生鮮食品から日用品まで、1年間に国内で運ばれる貨物の量は約48億トンにもなります。そのうち全国から東京に運ばれてくる貨物は約2.4億トン。貨物を運ぶ輸送機関の90%以上はトラックです。緑ナンバーのトラックは、輸送専門の営業用トラックのことで、都内における貨物輸送の半分以上は営業用トラックが担っているのです。東京都トラック協会は、都民の暮らしに深くかかわる営業用トラックのために、安全・安心な輸送サービスをしっかりとサポートしていくために、これからも交通事故防止・環境保全を目指しさまざまな活動に取り組んでまいります。

「いま」を支える。「みらい」をつくる。

一般社団法人 **東京都トラック協会**  
TOKYO TRUCKING ASSOCIATION  
〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目1番8号  
TEL.03-3359-6251(代) URL.http://www.totokyo.or.jp

トラック	91.1%	(4,346)
鉄道・海運・航空	8.9%	(423)
合計	4,769	(単位:百万トン)

営業用	86.3%	(1,848)
自家用	13.7%	(293)
合計	2,141	(単位:百万トン)

※資料:国土交通省

(面担 吉田周作)